

小児科後期研修

- 研修責任者名

副院長・奈良県立医科大学臨床教授 高瀬 俊夫
小児科医長 上田 卓

- 概要

初期臨床研修にて習得した知識・技術や基本的な診断能力をさらに向上させ、患者中心の全人的医療を実践し、より高度な専門知識を習得し専門医を目指します。

- プログラムの特徴

日本小児科学会専門医研修施設として3年間で専門医としての症例を研修します。外来診療においては指導医の下、急性疾患・慢性疾患の診療を行い、乳児健診、予防接種などの保健業務にも携わり、また、乳児の点滴・採血などの処置ができる技術を習得します。救急外来では、時間外の痙攣や意識障害等の救急医療を経験することで緊急疾患への迅速な対応を実践し治療方法を習得します。入院診療においては、入院患者の主治医として指導医とともに病態を把握し、検査・処置・治療を系統的に理解する技能を習得します。NICUでは緊急帝王切開などに立会い、低体重出生児・呼吸障害児の呼吸管理や処置・治療を指導医のもとに行い、新生児特有の全身管理を習得します。また、感染防止や安全対策についても習得します。

- 主な設備

MRI、CT、新生児用呼吸器等

- 取得できる認定・専門医

小児科専門医

- 指導医からのコメント 副院長・奈良県立医科大学臨床教授 高瀬 俊夫

昭和28年八尾市立病院に小児科が開設して以来、地区の中核小児医療機関として24時間体制の救急医療から高度先進医療まで多様な医療を実践し、住民や開業医からの高い評価を受けています。また府下の新生児医療の一端を担っており、大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）の参加病院として活動、地域周産期母子医療センターに認定されています。

小児科病棟は病床数45床（一般39床、NICU6床）、小学校・中学校の院内学級とプレイルームを有し、平成16年病院新築とともに最新の医療機器を備えています。

小児科後期研修の具体的目標は日本小児科学会専門医取得です。小児科専門医は3年間の後期研修を経た時点で受験資格が得られます。専門医受験資格を得るには種々の症例の一定数の経験を報告する必要がありますが、当科では、未熟児・新生児から年長児まで、急性疾患から慢性疾患までの症例を経験することが可能で必須の疾患はほぼ経験することができます。